

「ブルー・マジェスティ・トゥールビヨン」

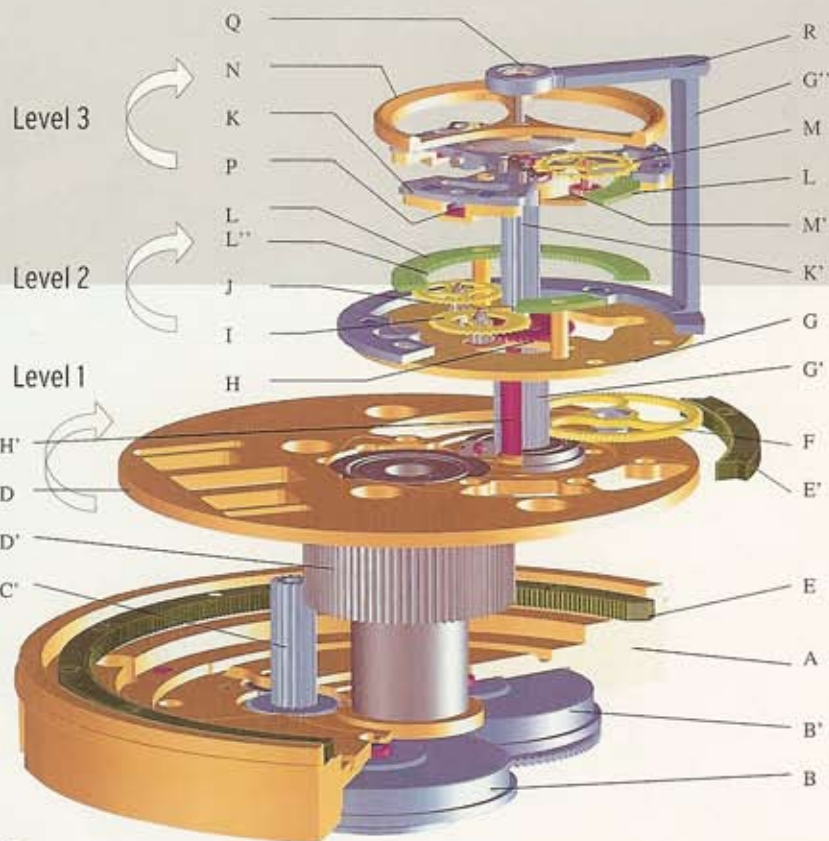
今年のパーゼルワールドでプロトタイプが発表された
ミステリー・セミフライング・トゥールビヨンがついに日本に上陸した。
まずは、その発表会に駆けつけ、疑問だらけの仕組みに迫った。



「ブルー・マジェスティ・トゥールビヨン」を携えて、ベルナルド・レデラー夫妻が来日。そのコンセプトを熱く語ってくれた。



ミステリー・セミフライング・トゥールビヨン。ダイヤが秒、キャリッジを支える腕が分、12時間で文字盤を1回転するインダイヤルが時を示す。50巻限定受注生産（納期約8カ月）。パワーリザーブ約72時間。1万4400振動/時。手巻き、18KWG（直径45mm）。2730万円（税）平和堂貿易 ☎03-3586-7363



3層のプレートの回転がそれぞれ時刻を表示。センターに軸を持つレベル1（プレートD）は12時間に1回転（時）、オフセンターのレベル2（プレートG）は1時間に1回転（分）、レベル3（ミニッツトゥールビヨンK）は1分に1回転（秒）する。その動力の伝達は、B・B'（ふたつの香箱）→C'（カナ）→D'（歯車）/D（時プレート）→F（中間車）→G'（カナ）/G（分プレート）となり、同時に、Dに固定されたH'（ゼボットベアリング）/H（歯車）はDの回転を1（伝達車）→J（伝達車）→K'（カナ）/K（ミニッツトゥールビヨン）と伝える。Kにはガンギ車・アンクル・テンプが組み込まれ、M'（ガンギカナ）はGに固定されたL（リング）のL'（内歯）と噛み合せて回り、Kの動きを確保する。

※'/'は固定を意味する。

驚異の毎秒4振動 ゆっくり時を感じるトゥールビヨン

まったくもってユニークなトゥールビヨンが登場した。キャリッジを文字盤ごと回転させてしまうのだ。その発想の原点を開発者に聞いた。

トゥールビヨンがキャリッジごと1分間に1回転するだけならば単なるミニッツトゥールビヨンであるが、この「ブルー・マジェスティ・トゥールビヨン」は、キャリッジが秒を刻むだけでなく、その前の階層（上層のレベル2）で分を、さらに、その前の階層（同レベル1）で時を刻むという、非常に独特かつ高度な技術を駆使している。しかも、その大きなテンプの振動数は、なんと毎秒4（毎時1万4400）振動というから驚きである。少なくとも腕時計に関する限り、これほどのロービートは聞いたことがない。

開発したのは、ミステリー・ダイアルで名を馳せる「ブルー」のデザイナー、ベルナルド・レデラー氏とその友人の独立時計師、ウィリー・ミラー氏である。レデラー氏は3年前からこの「マジェスティ」のアイデアを練りはじめ、大胆にもその代表作ミステリー・ダイアルの「ブルー・プラネット」にトゥールビヨンを組み込むことを考えついた。そして、ミラー氏とともに19カ月にわたるデザインやシステムの試行錯誤の末、ついにプロトタイプを完成させ、今年のパーゼルワールドの発表に至ったのだ。

レデラー氏はいう。「私は時間を自然界のハーモニーのなかで表現しようと試みたのです。時間が我々の人生の中心にあるのではなく、我々こそが人生の中心にあるのです。だから、時間に追われるのではなく、時をゆっくり感じられる時計を意図して開発しました。」

残念ながら発表会当日は、実際に「マジェスティ・トゥールビヨン」が動く様子を見ることはできなかった。願わくば、一刻も早く超低振動でゆっくり時を刻むそのビートを感じてみたいものだ。



blu

ビジュウワタナベ・白金台オロロジュリ bluフェア
2005年12月1日(木) ~ 12月6日(火)

玉川高島屋 03-3709-3227 アイアイ・イズズ 087-864-5225 ドゥーズ12青山 03-5770-0012 やぶ内時計舗 06-6211-1050 ビジュウワタナベ・白金台オロロジュリ 03-3441-2237
THE CARAT 03-5568-1808 information HEIWADO&CO. 03-3586-7363

NEW YORK . BEVERLY HILLS . LONDON . LISBOA . AMSTERDAM . CANNES . GENEVA . ST. MORITZ . MUNICH . MOSCOW . RIYADH
MANAMA . ABU DHABI . QATAR . HONG KONG . TOKYO

Bernhard Lederer [blu]

Yuji Fukushima [Eye Eye Isuzu]



BERNHARD LEDERER

ベルナルド・レダラー

ミステリー・ダイアルで名を馳せる「ブルー」のオーナー兼テクニカルディレクター。独立時計師であり、アンティーク・クロックの技師としても著名な氏の作品は、アカデミーに集う技巧派の時計師とは一線を画するもの。複雑機構やムーブメントの特殊性に縛られない部分で、氏の思い描く「時」の概念を、美しくビジュアライズして表示することが、ブルーのフィロソフィーである。

「私は個人的に、砂金石を使ったダイアルに大きな興味を持っています。現行のモデルで、それを搭載しているのが「ブルー・ギャラクシー」ですが、時間経過にあわせてダイアルが動く様子は、見る者を不思議な気持ちにさせてくれます。レダラー氏が、ギャラクシーで表現したかったことは何なのでしょうか？」

「この質問は私の人生観や、時に関する個人的な考えに関連しています。私にとって時間とはエモーションであり、それゆえに分割できないものです。なぜならエモーションというものは、ひとつひとつの単位で区切って経験することができないからです。もし時間をひとつの単位として経験するとなれば、1秒、1分、あるいは1時間という形態では、もはやエモーションな価値が存在しなくなるからです。ブルーは速やかに過ぎゆく現在、緩やかな未来の流れ、そして動きを静止した我々の歴史という三つの観点から、時を考えるように誘うのです」

「今回のコラボレーションで完成したユニークピースには、ギャラクシー以外で初めて砂金石が使用されていますが、大変な作業が必要だったと聞いています。ユニークピースの製作にあたっては、作品が完全に仕上がるまでに、いくつかの試作を行わなければなりません。このスペシャルオーダーでは、ブルー・プラネットシリーズがアヴェンチュリンのダイアルを、問題なく取り込めることを正確に確認しなければなりません。最大の問題は材料そのものだったのです。我々はアヴェンチュリン石(クリスタル)を数グラムのブロックでしか入手できず、それはあたくもダイヤモンドをカットするような慎重な作業が必要になりました。アヴェンチュリンをスライスするには、最適なアングルを見つけ出さなければなりません。しかし原材料に小さな穴があったりして、最適なアングルが最適な作品には繋がらなかったのです。アヴェンチュリンから、この素晴らしい輝きを作

り出すのは、熟練工をしても苦難の連続でした。特別作品を製作する喜びや楽しみに、当然ながら困難も伴うのです」

「2年ほど前に「ザ・スターズ・オブ・ナイト」という12星座を表現した世界限定品を見てから、今回のようなユニークピースのアイデアについてお話ししたことを思い出しました。私はあの作品から、今回の作品をイメージしたのです。」

「私が以前に12星座を製作したのは、このテーマがブルー・プラネットシリーズのシステムに完全に適合すると考えたからです。夜空を忠実に作り出すために、ブラック・マザー・オブ・パールを用い、星の位置関係や距離関係も正確に確認しました。もしこれらが、自然のあるがままの状態と違っていたら、このコンセプトは芸術とならずに、単なる機械装置でしかなかったでしょう」

「以前にこのお話をしたときから、我々アイアイ・イスズとのコラボレーションは考えられていたのでしょうか？」

なぜユニークピースまで創ってしまったのか？ ブルーを巡る2人の感性

ブルーが生み出す独創的な世界観。コラボレーションによって完成した3本のユニークピースには、そのエッセンスが凝縮されている。

はたしてレダラー氏は何を想い、製作に臨んだのか？

アイアイ・イスズの福島氏を聞き手に、コラボにまつわる逸話を収録する。

Bernhard Lederer [blu] Yuji Fukushima [Eye Eye Isuzu]



YASUYUKI IIMA

飯岡康行

正規120ブランドを常設し、売り場面積とともに国内最大級と呼ばれるリテラー「アイアイ・イズス」代表取締役社長。今回のカップリングの実質的な仕掛け人。



YUJI FUKUSHIMA

福島有二

「アイアイ・イズス」の専務取締役。次代の流行をいち早く洞察し、海外時計師との幅広い交流を活かして、過去にも数多くのコラボレーションモデルを手掛ける敏腕バイヤーでもある。

「その時点で私は、皆様のことを知りませんでした。しかし一昨年の10月に、家内とアイアイ・イズスを訪ねた際に、Palace of Mechanical Dreamsの門の前に立って、深い感銘を受けたのです。この素晴らしい感情は、共通の経験とコラボレーションによって、さらに強い絆で結ばれると確信したのです」

——レダラー氏はアカデミー出身ですが、奥様との出会いからブルー・ブランドの立ち上げに踏み切ったと聞いています。しかし複雑なブランドビジネスの中で、本当にやりたいことができていたのかと、勝手ながら心配することもあります。「私はこの仕事によって創作する自由を与えてもらっています。自分の工房でできる限り留まって、新しい作品の鼓動を聞いたり、新しい靈感を与えてくれるようなイマジネーションの旅に出ることを好みます。一般的に言って、ビジネスマンというものは新規のプロジェクトにはあまり興味を示しません。特にこの傾向は大企業に顕著です。彼らのオフィスが、技術部や開発部のある地域から遠く離れ

ているからでしょう。私がブルーの組織について考えていたとき、創造力と自分の楽しみがまず先であると自覚しました。こうすることが独自性を約束し、ブルーの強固なアイデンティティを築き上げる唯一の方法であると思っています。私は会社の父であり、友人なのです。メンバーの強い絆を作り出すのは私であり、ブルーが明らかに他と異なる性格を持ち続けられるのも私次第と考えます。現在の目標は最善の仕事環境を作ることです。このことが落ち着きとハーモニーを生み出し、ピュアなダイアルやデザインラインに反映されるのです」

——今回のプロジェクトは、自由奔放な発想を受け入れてくれるだけの技術力と、レダラー氏自身の魅力をユーザーに伝えたいということが念頭にありました。時計専門店として、ブルーの魅力を凝縮して伝えたかったのです。そのためには、今回の。我がまま仕様が必要だったのです。「ブルーがユニークピースであることを理解し、細心の注意を持って、最高の基

準に準じて創作されたと信じてくださることは、私にとって大きな喜びです。昨年のバーゼルで発表したブルー・マジエステイ・トゥールビヨン、静寂のもとに創作された真正正銘の芸術品と言えます。今回のコラボレーション作品や、これから生み出されてゆく世界の愛好家のためのモデルも、同じようにして製作されてゆくのです」

——今後、ブルーは数多くのファンを作ってゆくことになると思いますが、やはり自分たちが心から創りたいと思うものだけを開発してほしいですね。ブルーの魅力は、他のブランドにはない個人技だと思いませんか。だからそれを表現するテクニックも個人技であってほしいのです。「ひとつだけ付け加えさせてください。これは、これまでブルーを成功に導いてくれた家内の情熱に、大変感謝しているということです。彼女は私たちの作りあげるものすべてに対し、十分な余地と自由を与えてくれるのですが、その創造の源は、時として彼女の鉛筆から生まれることもあるのです」

Note:aventurine

アヴェンチュリンについて

内部に雲母片や赤鉄鉱の薄片状結晶を含む石英の一種。鉱物の中に含まれた結晶が眩しく輝くさまをアヴェンチュリン効果と言うが、単にアヴェンチュリンという場合には、砂金石(ゴールドストーン)とも呼ばれる石英を指す。イタリア語で「偶然に」を意味する「ア・ラヴメントゥーラ(a l'avventura)」が語源とされ、ヴェネチアのガラス工場で、銅屑を適当に混ぜ込んで作られたガラスが、キラキラと輝いたこと由来する。現在、同様の手法で作られる人工の砂金石を指して、アヴェンチュリン・ガラスと呼ぶ場合もある。